

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		ジェンダーギャップ解消の必要性を自分ごととして捉え、行動する	豊岡市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	大人も子どもも安心して使える『ホットイレ』		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	プラナリア 2MYH		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→		3.混成
チームメンバー数(公開)	5名		
代表者(公開)	三石真緒		
メンバー(公開)	仲村結衣、後藤心咲 、小西帆乃夏 、土生田祐子		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

ジェンダーギャップを感じているのは女性だけではない！

家事育児をする男性二人に話を聞いてみると、日常的なことでジェンダーギャップを感じる場面があるという。例えば、出先での子どもを連れてのトイレ。「異性の子どものトイレに困る」「おむつ替えスペースが男子トイレにはない」「授乳室は女性しか入れないことが多い」などで困っているそう。この身近なトイレに関するジェンダーギャップを解消するためにどうすればよいか考えてみることにした。

アイデア 1: 子ども用トイレをつくる

現在、豊岡市に設置されている子ども用トイレは極めて少ない。子どもだけが使用できるトイレを作ることで、「異性の子どものトイレについていけなくて心配」「子どもを一人でトイレに行かせるのが心配」といった不安を解消することができる。

アイデア 2: 親子トイレを各施設につくる

親子だけが使えるトイレをつくることで、安心して子どもを見守ることができる。親がお互いに子どもたちの様子を見守ることできる。

アイデア 3: ○歳までは男女関係なくトイレは親同伴という決まりをつくる

施設ごとに決まりをつくることで、周りの目を気にせず子どものトイレを見守ることができる。

アイデア 4: 父親用子どもお世話ルーム（ファミリールーム的なもの）をつくる

授乳やおむつ替え、着替えなどができるルームをつくることで、トイレの有無を問わず子どものお世話をすることができる。

アイデア 5: おむつを替えるスペースを男子トイレにもつくる

男子トイレにはおむつ替えスペースが設置されていないことが多く、「自分一人で子どもを見ているときに困る」と話されていた。男子トイレにも設置することで、育児をする男性の手助けになる。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

理由 1: 子育てをするお父さんが困っている。

ジェンダーギャップで困っているのは女性だけではありませんでした。

実際に子育てをしているお父さんに聞いてみました。

「異性の子どもをトイレに行かせるときに周りの目が気になる」、「自分一人で面倒を見てみると、多目的トイレが使えないくて女子の方に入れないとき一人で行かせるのが不安」、「1つしか多目的トイレがない」、などがありました。

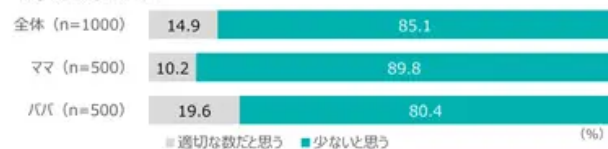
特にトイレと温泉が大変ということがわかりました。また、「オムツを変えるところが男子トイレにはないから不便」などがありました。

そこでなにかできないかと考え、アプリや多目的トイレを作ったりする案を考えました。それをする事で、男性でも子育てをするのが楽になり不安が解消されるのではないかと思います。

<男子トイレと女子トイレのオムツ台を設置してほしい比率>

【図8-1】 おむつ台が設置されている男性トイレ

現状の設置数は？



今後、増設してほしいか？

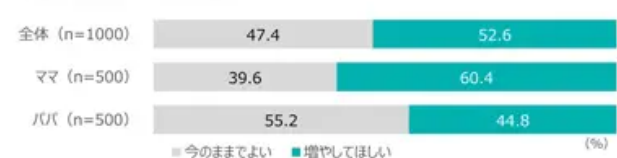


【図8-2】 おむつ台が設置されている女性トイレ

現状の設置数は？



今後、増設してほしいか？



(出典:プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社「家ソト育児調査」2019 年)

グラフを見て男性はオムツ台の数が少ないと思っている人が多く、増やしてほしいと思っている人が半分以上いることがわかります。また、上に述べたようなことで困っている人が多いのではないかと考えます。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

推進主体→プラナリア 2MYH

実現主体→豊岡市役所など

2. 必要な資源

「ヒト」

協力隊

↳ 私達プラナリア 2MYH に協力をしてくださる方々。

地域の住民、学生

↳ 若者と年長者それぞれにジェンダーギャップについての質問をし、どう感じているか聞き込み調査をする。

豊岡市役所

↳ 多目的トイレを増やすなどの、私達の考えを実現するために検討していただく。

「モノ」

[可視化できるアプリ]

・可視化できるアプリで、近くの多目的トイレや親子でも使いやすい施設が表示されるマップアプリ を作ったり、子連れ限定でトイレの時だけお互い様マッチングアプリを作る。

「カネ」

[実証フェーズ] インタビューや調査等はボランティアで実施

[実装フェーズ] 市への改善提案、民間商業施設等への改善提案を検討

3. 実施のプロセス

2025 年

4 月: プロジェクト設計

5 月: 実証実験の協力依頼(市役所、民間商業施設運営者との意見交換)

6 月: インタビュー実施

9 月: 改善要望案作成

10 月: 関係者説明会

12 月: 改善要望の実施可否検討会

2 月: 成果発表会

2025 年 4 月: 実装化フェーズへ